

1.調査目的等

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
 そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

2.学校ごとの指標

【短期指標】

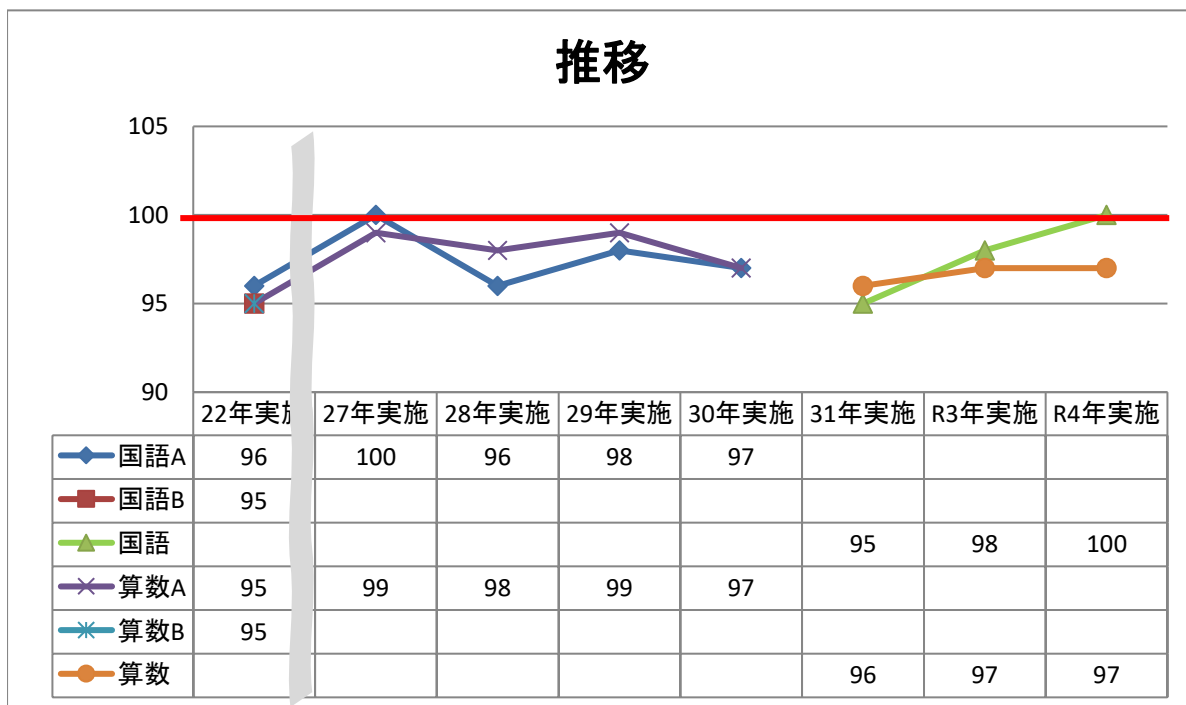
国語 〈文科省標準化得点〉100
 算数 〈文科省標準化得点〉98

3.指標に向けての取組

- 単元構成を工夫し、形成的評価を生かした指導の充実
- 終末段階における習熟度別・課題別分割授業の実施
- 朝の活動やチャレンジタイムにおける基礎基本の定着
- 自分の考えを根拠や理由を明確にして書いたり、表現し合ったりする活動の設定
- 家庭学習の習慣化

4.調査結果(全国の平均正答数を100としたときの文科省標準化得点)

	国語	算数
本校	100	97
嘉麻市	98	97
全国	100	100



※ 平成31年度実施から「知識に関する問題(A問題)」と「活用に関する問題(B問題)」を一体的に問う形式に変更

5.各学校における分析

□単元構成を工夫し形成的評価を生かした指導を充実させてきた。具体的には、単元の終末段階の始めに形成的評価としてプレテストを実施し、その結果をもとにして習熟度別並びに課題別の分割授業を全学年の算数科において実施してきた。そのことでCD層に着目した取組が進み、単元テスト期待値の未通過者は限りなく0人に近づいている。本調査の算数では目標値には達しなかったが、昨年度の同一集団が獲得した標準化得点は92.9であり、4.1ポイント高めることができています。CD層の学びに向かう姿が好転していることも大きな成果であるととらえる。

□自分の考えを書いたり表現し合ったりする活動を多く設定してきた。昨年度から「対話」を核とした授業づくりを展開し、本年度も継続している。協働的な学びの中で、言語運用能力が高まったことが国語科を100に伸ばせた一因であるととらえる。

□朝の活動や家庭学習においても、基礎基本の定着を図った。チャレンジタイムでは、それに加えて自己選択して問題に向かう力も培っている。しかし、土日の家庭学習実施率が停滞しており、改善が必要である。

6.各学校における今後の取組

□単元構成を工夫し、形成的評価を生かした指導を充実させるとともに、終末段階にける習熟度別・課題別分割授業を実施する。【継続】

- ・複数体制による授業の実施
- ・評価後の個別シートの活用
- ・単元を1サイクルとした短期検証⇒期待値通過率90%以上

□朝の活動やチャレンジタイムにおける基礎基本の定着【継続】

- ・家庭学習の解説
- ・チャレンジプリント
- ・MIM

□書く活動の充実【新規】

- ・条件を指定した書く活動の設定(文字数指定・キーワード指定・複数の条件を指定等)
- ・根拠や理由を明確に示して自分の考えを書く活動の設定
- ・自分の考えを付加・修正・強化する対話活動の設定

□家庭学習の習慣化【継続】【新規】

- ・「家庭学習強化週間」や「家庭読書」の取り組み
- ・個人の課題に応じた家庭学習の実施
- ・「10分×学年数+10分」の奨励
- ・週末課題の確実な提示と見取りの工夫

7.嘉麻市教育委員会としての今後の取組

◎今後の取組を具体化し推進できるように、特に次の3点について指導助言及び支援を行うとともに、周知徹底できるように継続的に指導する。

◆嘉麻市学力向上全体構想に設定した学習評価からの授業づくり(指導と評価の一体化)や思考を伴う「書く活動」を核とした授業づくりの推進する。そのために、校内研修での授業観察指導を実施したり、「書く活動ポイント9」や「授業チェックリスト」を活用できるように指導助言や支援を行ったりする。

◆嘉麻市学力向上推進委員会に基づく学力向上検証委員会を開催し、単元テスト評価後の個に応じた習熟度別指導を取り入れた指導方法の工夫を推進する。そのために、習熟度別指導の単元づくりや個に応じた補充プリントの活用の仕方について指導する。

◆嘉麻市学力向上全体構想に設定した「家庭学習の取組」を推進する。そのために、個に応じた学習課題の提示を進めるとともに、自学の習慣化に向けた具体的な取組を提示したり各学校の取組のよさを交流する場を設定する。